



WWF Annual Review 2004

【表紙裏】

2004 年度 WWF インターナショナル活動報告（仮訳）

「すべての人類にとって持続可能性のより高い未来をつくるためには、健全な環境が不可欠であることを、WWF は多くのパートナーと共に実証している」

WWF インターナショナル総裁 チーフ・エメカ・アニョク

分相応に生活すること

生命を維持する収容力を凌ぐ勢いで、私たちが依然としてこの地球を収奪していることを、2004年にWWFから発行された「生きている地球レポート」(シリーズ5冊目)は示している。「再生する速度を上回る速さで、私たちは自然という資本を浪費している」とWWF インターナショナル事務局長のクロード・マータンは述べている。

それにもかかわらず、このレポートは、地球1個分の生物生産力の範囲内で生活するという課題に取り組むため、革新的なモデルを開発することは可能であると示唆している。これに成功するためには、「地球1個分の生活」は、技術的にも経済的にも実現可能で魅力的でなければならない。「地球1個分の生活」は、住宅や衣服、食物、健康管理、教育、エネルギー、移動手段、レジャーなどのニーズに対応する必要がある。そして、それはシンプルでなければならない。

1つの実例として、WWFと生物地域開発グループ(BioRegional Development Group)は、ロンドンで、「ベディントンの化石燃料ゼロ・エネルギー開発(BedZED)」という持続可能な生活プロジェクトを支援してきた。このプロジェクトでは住宅や事務所のエネルギーと水の消費量は平均より50パーセント少なくて済み、建材は地域で産出されたものかリサイクル品である。そこに住む人たちは、BedZEDの住み心地の良さに気づき、エコロジカル・フットプリントの縮小は生活の質を下げることを意味するという一般的な考えを否定している。

「持続可能な生活と質の高い生活は、相反するものではない」と、レポートの執筆者の一人であるジョナサン・ローは言う。「しかしながら、私たちは、自然資源の無駄遣いを止め、途上国と先進国間における消費の不均衡を是正しなければならない」。

Living Planet Report 2004

www.panda.org/livingplanet



WWF Annual Review 2004

【P1 前進……】

原因に対処する

WWF インターナショナル事務局長 クロード・マータン

気候変動の原因に対して効果的な取り組みを行わなければ、世界はますます不安定になっていこう 環境上・社会的・経済的に。

この報告書にまとめられた WWF のプログラムは、気候変動やその他の地球にとって脅威となる問題に取り組むための方策である。

2 倍に拡大

ちょうど 1 年前、WWF は森林保護区が効果的に倍増したことを報告した。過去 10 年間で、世界の森林面積の 6 パーセントから 13 パーセントへの増加である。この増加は保護区全体の拡大に大きく貢献し、今やその面積は中国とインドを合わせた広さになった。

それ以外の広大な森林のいくつかにおいて、WWF が貴重な地区の保全を迅速に今後も進めていくことを私は確信している。WWF・ブラジル政府・世界銀行・GEF (地球環境ファシリティ) のパートナーシップによる「アマゾン地域保護区策定 (ARPA) 計画」は、ドイツ復興金融公庫 (KfW) などの公的助成機関からさらなる支援を受けて、熱帯雨林の保全に大きく貢献する唯一の事業となるだろう。また、WWF は、重要な淡水および海洋生態系に関しても活動を進めており、それらはまもなく恒久的な保護下に置かれる見込みである。

象徴種

WWF は種の保護活動においても大きく前進した。例えば昨年、25 年間にわたり中国政府と共同で行なってきたパンダの保護活動の成果が発表された。パンダの生息地、特に中国シャンシー、チンリン 陝西省秦嶺山脈での効果的な保護活動によって、WWF の象徴でもあるジャイアントパンダの生存率は大きく向上し、今ではその生息数が 1,600 頭に増加したと推計されている。

WWF は、自然保護に携わる人々と協力して、生物多様性保全のさまざまな面で大きく前進してきた。しかしながら、こうした成功と足並みを揃えるように難問が生じ、それに対する取り組みが続けられている。



WWF Annual Review 2004

【P2 効果的な……】

地球温暖化の警告

2004年の初めに、英国政府の主任科学者デービッド・キング卿は、現在、世界が直面している最も深刻な問題は地球温暖化であると公式に発言した。彼は、最も深刻な環境問題とは言わず、最も深刻な問題、と述べた。デービッド卿と同じ懸念を、私たちの大多数も持っている。気候変動により、生活のあらゆる分野が危険にさらされている。私たち皆が依存している地球の生物多様性、社会組織（特に脆弱な社会において）、そして、世界経済全体である。

サンゴの白化や森林火災から、北極の氷の急速な融解、そして方角を見失った移動性の野生動物種に至るまで、深刻な影響を私たちはすでに目の当たりにしている。気候変動条約が締結された10~12年前当時には、最も急進的な環境問題専門家ですら、このような進行を予測することはできなかつたろう。ましてや、短期的な既得権益のために、地球の気候に対する人間のいかなる影響をも否定し続けた人々はなおさらである。

空約束

しかし、今は誰が正しく、誰が間違っていたかを議論する時ではない。この重大な世界的問題を解決するために、今、私たちすべて、とりわけ政府が必要とされている。政界の指導者は何をすべきかの把握に苦勞しており、約束を実現することなど更にできていない。彼らは気候変動に対する効果的な取り組みに失敗しているだけでなく、2015年までに環境持続性を確固たるものにするという、主要な国連ミレニアム開発目標達成に失敗する危険も冒している。先進国が繰り返している、開発援助をGDPの0.7パーセントに増加するという約束 貧困削減戦略の重要な要素 は口先だけのものに留まっている。実際、GDPに対して平均0.23パーセントという現在の開発援助額は、実質ベースで1960年代のわずか4分の1に過ぎない。

密接不可分な

旱魃^{かんぼつ}や洪水、生物多様性の損失に、より直接的な形でさらされている貧しい地域社会で、気候変動の影響は特に過酷である。つまり、貧困削減計画に、気候変動の緩和や森林、河川流域、サンゴ礁、山岳地域の効果的な長期的保全を盛り込まない限り、貧困はより一層悪化する可能性が非常に高く、その結果、安全保障問題を引き起こす可能性もますます高くなる。

生物多様性の保護があらゆる貧困削減計画に不可欠な要素であるという紛れもない事実を説明し文書化するという膨大な仕事に、私たちは取り組んでいる。貿易・資源消費・エネルギー政策と開発戦略とを統合するよう、政府に強く求めていかなければならない。あなたのご支援を頼りにしています。



WWF Annual Review 2004

【P2 の写真上説明】

突然の異常気象は、変動する気候がもたらす危険を特徴づけている

【P2 の写真下説明】

監視台の上で：(左から右へ) 中国人の野生動物保護官、WWF スタッフの ジム・ハークネス、クロード・マータン。中国陝西省秦嶺山脈のジャイアントパンダ生息地にて

【P3】

2004 年の WWF

WWF インターナショナル COO(最高執行責任者) ポール・スティール

柵で囲んで守るということだけではない。長期にわたり持続可能な解決方法を確実に提示するように、非常に多くの異なる技術や道具、パートナーシップを活用することだ。

WWF の 2003 年度活動報告で、「生きている地球のために」という理念が、私たちが際立たせていると語っていたが、どう際立たせているのか？

スティール：人類が自然と調和して生きていく世界を作るために努力することは、WWF の使命の根本であり、生きている地球という私たちの理念の本質だ。他の多くの組織は「さあ、とにかく生物多様性を守りましょう」という考え方で、必ずしも解決方法を提示することなく活動している。一方私たちは、ただ問題を確認して「これをやめるべきだ、あれをやめるべきだ」と言うのではなく、生物多様性の減少原因に対処する努力をしていることを誇りに思っている。

しかし、WWF は本当にそれ程、他の自然保護団体と異なるのか？ 私たちが敬服するような活動をしている組織や、連携して活動している組織も数多くあるが。

スティール：WWF は、多くの相違点によって比類のない組織となっていると、私は心から信じている。

第 1 の違いは、私たちが持つ影響力の幅広さだ。他のどの大規模な自然保護団体にもないものだと思う。40 年以上にわたるフィールドワークを通して得たノウハウから、地球規模の政策提言活動に至るまで 他に類を見ない経験の幅広さがある。

第 2 に、私たちが何かについて意見をまとめる時は、常にしっかりと科学的根拠に基づいている点だ。WWF は、科学的根拠が明確でない場合、独断的なはっきりとした声明を出さないために批判されることがよくある。科学的根拠が明確になりさえすれば、有害化学物質や気候変動についてそうしたように、私たちは喜んで自らの立場を表明する。し



WWF Annual Review 2004

かし、受けが良いからという理由だけで、その説の側につくようなことはしない。

第3は、解決策を提供するために、積極的にパートナーシップを組む意欲である。解決策というのは、共に活動することによってのみもたらされると、私たちは信じている。

【P3 下の facts & figures】

5,280 億ユーロ：2002 年の EU における化学物質販売高

37%：化石燃料（主に石炭）の燃焼により、電力業界が排出した CO2 の割合

【P4 解決策……】

大きなエコロジカル・フットプリントを生み出す産業にはどのように働きかけているか？

スティール：まず第一に、企業は自ら進んで環境問題に真剣に取り組まなければならない。私たちのパートナー企業の一つ、ラファージュは世界をリードする建築資材企業だが、地球に対して確かな責任があることを経営陣が認識している。ラファージュとの共同事業は、森林の回復と採石場復元のガイドライン作りから始まった。しかし、私たちの関係は急速に発展し、CO2 排出量の削減や化学物質の影響の検討についてなど、より論議を呼ぶ問題に踏み込むことになった。そして今や、私たちは、持続可能な建築とでも呼ぶべき領域に入りつつある。これは、協力して活動することで、どのようにビジネスと保護活動の目標を共に達成することができるかを示す素晴らしい例だ。

1960 年代以来、WWF は変わったか？

スティール：一言で言うと、答えはイエスだ。現在、私たちは保護活動について、以前よりずっと幅広い見方をしている。トラやパンダの保護といった象徴的なプログラムは依然として重要であり、今後も現場における活動の中心であり続けると認識しているが、一方で、生物多様性の損失や幅広い問題の根源を見極めるには、さらに一層全体論的なスタンスを取らなければならないと考えている。40 年前、私たちはあらゆる場所で多数の小規模なプロジェクトを進めていた。今は、生態域保全のようなより広範囲のプログラムに注目している。広大な地理上の区域を取り上げて、持続可能な開発という解決策を見出すために、影響を及ぼすさまざまな要因のすべてを理解しようとするプログラムである。

では、WWF の 2004 年を総括すると？

スティール：地球規模の政策から現場のフィールド・プログラムにわたる問題に取り組んでいる今日の WWF は、事実、組織として独特の位置にある。地域社会、各国政府、民間企業、国際組織、そしてもちろん、自然そのものとパートナーシップを結びながら、地球上のあらゆる問題について解決策を見出すことに取り組んでいる、科学に基づいた、行動



WWF Annual Review 2004

的な組織である。

【P5 全力を注ぐ……】

行動の時

WWF インターナショナル プログラム部長 クリス・ヘイルズ（左奥）

2004 年も、2 つの重要な分野 世界の生物多様性を保護し、人間のエコロジカル・フットプリントを減らすこと において、自然環境の劣化を食い止める私たちの努力は続けられた。困難もあったが、これら 2 つの極めて重要な分野において、私たちはいくつもの成功を収めた。

今年はまだ必然的に、多くの短期的・長期的な問題に直面し続けた 1 年でもあった。それらのうちのいくつかを挙げると……

「ペーパーパーク」：公式に保護地域として指定されてはいるが、その陰で開発が進み、野生生物の密猟も続いている地域。

南北分断：例えば、北の「持てる」国々が南の「持たざる」国々の漁場を利用すること。スズメの涙ほどのわずかな金額と引き換えに、海洋資源を減少させ、沿岸地域を破壊し、膨大な利益を得る。

自然保護を貧困の削減並びに開発と調和させること：各国政府は、社会的・経済的開発を健全な自然環境と切り離して考えてはならないということに徐々に気づき始めている。しかしながら、自然保護は、開発途上国にとってお金のかかる贅沢だとしばしば考えられている。開発が生命維持システムを破壊しないよう保証することは、私たちの活動の重要な一部である。

ゆっくりとした速度：再生可能なエネルギーに向けて世界が変化している速度。エネルギー専門家は、化石燃料への継続的な依存は選択肢ではないという見解で一致している。にもかかわらず、年間 2,400 億米ドルに上る全世界のエネルギー補助金のうち、わずか 4 パーセントに満たない金額が再生可能なエネルギー源に当てられ、約 3 分の 2 は化石燃料のために使われている。

【P5 の写真上】

1986 年に開始された、ネパールにおける WWF 最大の取り組みの一つである、アンナプル



WWF Annual Review 2004

ナ保護区プロジェクトの成功は、地域社会の人々の参加によるところが大きい。

【P5 の写真下】

植物伝承を語る：ヒンバ族の女性が、植物とその利用に関する伝統的な知識を WWF のスタッフに伝えている。ナミビアのクネーネ州にて

【P4・5 下の facts & figures】

100 万年：ごみ埋立地でガラス瓶が分解するのに要する時間 / アルミニウムは 500 年 / プラスチックは 400 年

1 パーセント：1990 年から 2000 年の間の温帯林増加率 / 7 パーセント：同期間における熱帯林の減少率

30 万：漁具に絡まって死ぬ小型クジラ類・イルカ類・ネズミイルカ類の年間個体数

【P6 やりがいのある……】

生物多様性のための闘い

過去数十年の間、人間の活動による影響に比例して、地球上の絶滅危機種の数は確実に増え続けている。2004 年版の IUCN (国際自然保護連合) による絶滅のおそれのある種のレッドリストによれば、現在、1 万 5,000 以上の動植物が絶滅の危機に瀕しており、私たちが気付いていない種が、おそらく更に数千あるだろう。

私たちの目標の一つは、これ以上の種の喪失を防ぐことである。私たちは生きている地球指数 (LPI) (図 1) の傾向を逆転させるために、あらゆることを続ける決意である。

自然保護の階段を上る

今年は、生物多様性保全の目標達成に向けて、いくつもの目覚ましい進展が見られた。例えば、

- ウェットランドの持続可能な管理に対する真剣な関与を示すために、マダガスカル政府は地域のコミュニティと協力し、各国政府間のラムサール条約に基づき、100 万ヘクタール以上の淡水生態系を国際的に重要なウェットランドとして保護区とすることを決定した。これにより、WWF の貢献によって保護区に指定された淡水域の面積は、5,000 万ヘクタールを超えた。
- 2004 年 5 月に発表された私たちの世界規模のウミガメ調査によれば、ウミガメの保護活動は、沿岸地域コミュニティにとって、ウミガメ捕獲の 3 倍までの収入を観光業によって生み出すことができることが分かった。保護活動が貧困削減に役立つ典



WWF Annual Review 2004

型的な事例の一つである。

- 第13回 CITES (ワシントン条約) 締約国会議では、いくつかの種に関してより良い貿易規制を実現し、多くの成功を収めた。ラミンとアガーウッドがアジアにおける保護対象のリストに商業用材木とし初めて掲載され、拡大しつつある違法伐採との闘いに役立つ結果となった。私たちはまた、ホホジロザメとナポレオンフィッシュ (メガネモチノウオ) の附属書への掲載を求めるロビー活動に成功し、キャビアとチョウザメに対する厳しい新条件を課すという合意に関して大きな役割を果たした。

【P6 下の facts & figures】

少なくとも5万トン：アフリカ諸国に蓄積した旧型の農薬の量

200億 US ドル：チャーリー及び、フランシス、イヴァン、ジャンヌのハリケーンによる被害に対して請求された保険金の推定総額

(図1) 生きている地球指数、1970 - 2000

(図2) 人間全体のエコロジカル・フットプリント、1961 - 2001

出典：WWFの生きている地球レポート2004 (www.panda.org/livingplanet)

【P7】

私たちのフットプリントを減らすこと

生物種の減少を食い止める あるいは逆に増加させる ことは、根本的な原因に取り組み、かつ、長期的な活動を続けることによってしか実現しない。一つの種を保護するために奮闘した後、汚染され、過剰に開発され、気候が変化してしまった環境でその種が生き残ることを期待しても無駄である。ここに、最初の目標と同等に重要な二番目の目標が掲げられる意味がある 地球上の人間活動のフットプリントを減らすことである (図2)。

市場における優位性

過剰な開発の例として、世界の森林と海洋の利用以上により良い例はない。この問題に取り組むために、WWFは、これらの資源の持続可能な利用 (独立した第三者により認証された) に関して、市場における優位性を作り出すことを目指している。

ここ1年で私たちは、ラテンアメリカで認証林を大幅に拡大した。FSC (森林管理協議会) の認証製品 (適切に管理されている持続可能な森林のみから生産された製品) の販売に取り組むバイヤーズグループのネットワークは拡大しており、世界規模の家具の小売チェーンであるイケアも、これに積極的に参加するようになった。



WWF Annual Review 2004

FSC と類似の仕組みでごく初期段階にある MSC（海洋管理協議会）も順調に発展している。最近 4 つの新たな漁業が認証され、計 11 となり、さらにあと 20 の漁業が認証を待っている。これによって消費者は、海産物を購入するときに責任ある選択をすることができるようになる。

生命を維持する

淡水もまた、破壊的に利用されている、生命維持に不可欠な資源である。WWF と他の市民団体による 3 年にわたるキャンペーンの結果、2004 年に、新しいスペイン政府は、南部の観光施設と集約農業のために北東部から膨大な量の水を引く計画（エプロ川導水計画として知られる）を中止した。

潜在的な脅威

現在、有害な産業汚染・化学汚染・農薬汚染は世界中に広がっている。極地から海底の最も深い底に至るまで、地球上で汚染されていない場所はどこにもない。

最も危険で汚染が広がりやすいものの中に、残留性有機汚染物質（POPs） 野生生物と人体に深刻な影響を及ぼす独特の性質を持つ合成化学物質 がある。POPs は有害で残留性があり、通常の汚染物質を分解するプロセスでは効果がなく、人体や動物の体脂肪中に蓄積され、母体から胎児へ受け渡され、気流や水流によって長距離を移動する。

POPs はごくわずかな量でも、神経系の損傷や免疫系の病気、生殖及び発育上の障害、がんを引き起こし、人間や動物の組織を破壊する。

段階的な減少

ストックホルム条約は、これらの危険な化学物質のいくつかに対処する条約である。条約を作り上げ、各国政府にそれを批准させる上で、WWF は一助となった。2004 年 5 月に、この条約が国際法となり、世界で最も危険とされる 12 の化学物質が禁止、または、非常に厳しく規制されることになった。

この成功に基づいて、WWF の DetoX キャンペーンは、REACH（欧州化学物質規制）として知られる化学物質の規制を強化する新しい法律が、EU において確実に採用されることを目指している。その必要性を強調するため、WWF はヨーロッパ全土で、EU 議員を始めとする市民の血液分析を行なった。その結果、居住地域にかかわらず、使用が禁止されて既に何年も経過している DDT を含む多くの化学物質が、未だに私たちの体内に残っていることが判明した。

熱を冷ますこと

もう一つの大きな脅威は、温室効果ガスによる大気汚染が引き起こす地球温暖化である。過去 1,000 年間 1990 年代は最も気温の高い 10 年間となり、その影響は世界中に及んだ。



WWF Annual Review 2004

融解する氷河から、地獄のような熱波（フランス国内だけでも1万4,800人の死者を出した2003年夏のような）に至るまで。

今では、温室効果ガスの排出削減を締約国に求めることにより気候変動に取り組もうとする京都議定書について、聞いたことがないという人はほとんどいないだろう。2004年の大きな成功は、ロシア政府が議定書に対する初期の反対意見を撤回し、支持を表明することで、条約の発効をもたらしたことであった。WWFのスタッフはこれを達成するために重大な役割を果たした。気候変動プログラムの担当部長、ジェニファー・モーガンは、次のように述べた。「世界ははっきりと宣言した。『私たちは確信している。今こそ真剣に行動を起こす時である』」。

その通りである。

(P7下の facts & figures)

30年：モルジブが海面下に沈むまでに要する時間。3つの島の住民は既に避難している

70パーセント：1970年から2000年の間にタイセイヨウタラの水揚げが減少した割合

【P8】

財務管理

WWF インターナショナル財務管理部長 チュウ・チョン

WWF は、皆様からの継続的な資金援助と信頼を大切にしている。個人の方々を始め、政府、財団、企業からご寄付をいただいているが、私たちは、皆様の意志に従って資金が活用されるように、厳密に財務管理を行なっている。

支出は、内部と外部の専門監査役により見直され、定期的に会計報告と専門的な活動報告が作成される。援助をしてくださる皆様との間に継続的な強い関係がなければ、保護活動の目的達成に不可欠な長期プロジェクトに投資することはできないだろう。

WWF インターナショナルは若干の収入増加

2004年のWWF インターナショナルの総収入は、前年に比べ微増し、1億520万スイスフランとなった。国別組織、並びに、信託および財団からの資金は減少したが、より多くの企業からの援助及び財産運用収入と共に、政府系補助金が16%増えたことで結果は相殺された。運営剰余金は、前年度の430万スイスフランから減少し、140万スイスフランとなった。この剰余金は、会計年度末時点での事業資金額を表しており、2004年度には使用されていない。



WWF Annual Review 2004

WWF ネットワークの収入の伸び

WWF ネットワークの収入は、6 億 800 万スイスフランで、前年度と比べると 12%の増加である。US ドルで計算すると、総収入は 22%の増加となるが、スイスフランで見た場合にはそれほど増加が見られない。これは、2004 年、スイスフランが US ドルに対し相対的に強かったためといえる。個人からの支援金は 5%の増加、政府系補助金は 19%の増加となった。財産運用収入が 140 万スイスフランから 5,040 万スイスフランに増加したことは、金融情勢が改善されたことの反映といえる。しかしながら、信託・基金は 50%の減少となった。この資金源に関しては、2003 年が例外的に良好な年であったからである。運営剰余金が、1,570 万スイスフランから 6,460 万スイスフランになり大幅に増加したが、これは、いくつかの事業資金は受取りが遅れ、同じ会計年度に使用することができなかったためである。この運営剰余金により、私たちは現在行なっているプロジェクトやプログラムに継続して支出することができるのである。

【P8・9 下の facts & figures】

23%と 12%: 絶滅危機種と考えられる哺乳類 (1,130 種) と鳥類 (1,194 種) の割合

95%: アルミニウムをリサイクルすることにより、一次生産と比べて節減できるエネルギーの割合

10 億人: 海洋魚を主なタンパク源としている人

700 km × 700 km: 現在の世界総エネルギー需要に見合うソーラーパネルの面積

【P9.10.11】

WWF インターナショナルの収支報告・バランスシート、及び、WWF ネットワークの収支報告

【P12】

サポーター：なくてはならない資産

WWF インターナショナル資金調達・マーケティング部長 マリオ・フェッツ

私たちを支援してくださるサポーターは、非常に大事な資産である。サポーターの方々がいなければ、自然保護を実現することはできない。

そのようなものとして、私たちはサポーターを尊敬し、私たちを信頼してご寄付の効果的な活用を任せてくださることに感謝している。毎年およそ 500 万人の個人が、WWF に直



WWF Annual Review 2004

接資金的支援を行っており、WWF 全体の総収入のほぼ半分を占めている。個人の方々からの支援は、私たちの最も重要な資金源であり、私たちはその支援を、あるいは、個人の方々を当たり前と考えたことはない。

なぜ支援してくださるのか？

瞬時のコミュニケーションと高度な技術から成る今日の複雑な世界で、寄付者のニーズはより洗練されて来ている。これまでにない程、支援獲得競争が激しくなっており、彼らのニーズを理解し、それを満たすことが重要になっている。サポーターは、私たちの問題の解決方法やその結果を知りたいと願い、私たちに説明責任を果たすことを求めている。今後も支援を続けていただくことを期待するなら、支援者との関係を築き上げることが鍵になる。

何百万人ものサポーター

直接の資金的援助という結果が、私たちが恩恵を受ける支援のすべてではない。保護活動への参加やボランティア活動、WWF ロゴがついた製品の購入などを通して、WWF を支援してくださる個人のサポーターが増えている。私たちの活動のために、直接・間接に、労力、時間、お金を提供してくださるあらゆる人たちを大事にしている。すべての支援は、その規模にかかわらず、資金的なものやそれ以外のものも、重要なのである。

核となる活動への資金援助

WWF のサポーターは世界中から参加している。1001 : ネイチャー・トラストには、54 カ国のメンバーがいる。ネイチャー・トラストは、オランダの故ベルンハルト殿下により 1971 年に設立されたグループであり、そのメンバーは、WWF の核となる活動に対する資金を援助する基金に寄付をする。

財団による援助

マーバ財団は、淡水域保全活動に継続して支援している。一番最近の資金提供によって、WWF は、クロアチア及びドナウ川下流域でのプロジェクトを進展させることが可能になる。オーク財団は、ヨーロッパの海洋保護や EU の共通漁業政策の改革を目標とした WWF の海洋プログラムに継続して支援している。

やりがいのある協力関係

2004 年度、WWF の総収入のうち 10% は、企業によるものである。WWF が経済産業界と提携、協力することは、保護活動にとって有益だけでなく、社会や環境に対する企業の責任の方向へ企業を動かす方法であることも、明らかになりつつある。このような協調関係は、お互いにとって挑戦しがいがあり、革新的なものであり、私たちの目標は、企業からの長期的な支援と意欲的参加を強化することにある。



WWF Annual Review 2004

(詳細については、www.panda.org/partnerships/corporate を参照してください)

協力することで変化をもたらす

キヤノンヨーロッパは、1998 年、WWF にとって初めての「保全活動パートナー」となった。キヤノンからの支援のおかげで、2 万点以上から成るオンライン上の総合的画像ライブラリーが、WWF ネットワークにより利用可能となった。今年、このパートナーシップにより、トナーカートリッジの回収プログラムを、欧州のいくつかの国々で開始させた。これは、WWF の淡水生態系プログラムの資金を集めるためだけでなく、循環型リサイクルを促進させるためでもある。

【P12 写真のキャプション】

「笑って！」 写真家のマーチン・ハーベイ氏は、Canon EOS-1Ds を自慢する。

【P13】

プラスの影響

2000 年以来、WWF は、建築資材業界の世界的リーダー、ラファージュと共に環境に関する政策と慣行（特に CO2 排出削減）を発展させ、改善するために活動してきた。ラファージュの前進は、業界全体に対してプラスの影響をもたらし、他企業も後に続いた。WWF とのパートナーシップにより、世界最大のセメント製造会社は、合意の下に設定された重要な環境パフォーマンスの指標の改善を記録した、持続可能性に関する 3 つのレポートを出版する機会を得ることになった。

自然に投資する

WWF と HSBC（香港上海銀行）は、淡水生態系をより健全なものにしていくことと、ブラジルや中国、イギリス、アメリカ、メキシコにおける淡水管理の政策に影響を与えることを目指している。今年、HSBC は、優れた森林管理を実行している企業に対して、融資やその他の金融支援を促進する、FSC 認証を基盤にした一連の森林セクターガイドラインを導入した。

保護のためにつながろう！

ノキアと WWF は、ワークショップや専用のイントラネットサイトなどの「学習イニシアチブ」を通して、世界中のノキア従業員の環境への関心を高めるために協力している。これと平行して、WWF とノキアは、ノキアの事業に特に関連する環境問題だけでなく、一般的な環境問題についても話し合うために、お互いの関係者を対象にした一連のセミナーを



WWF Annual Review 2004

開催した。

【P13 中央写真のキャプション】

ノキアは、WWF の世界規模のプレゼンスと、「問題解決」という建設的な手法ゆえに、共に活動することを選んだ。この協力により、我が社では、従業員の環境への関心が高まり、これらの問題を自分自身の日常の仕事の一部として意識するようになった。これはやがて、ノキアとその関係者のエコロジカル・フットプリントを減らすことにもつながるだろう。

ノキア・環境問題担当副社長 キルシ・ソルムーネン

WWF の知名度を高める

オグルヴィ・アンド・メイザーは、30 年以上にわたり、WWF の活動の認知を高めるために全力を注いできた。価値ある独創的な出版広告をデザインするだけでなく、オグルヴィグループは、同グループの世界規模のメディア企業、マインドシェア社を通して、主要な出版物に広告枠を無料で提供している。一番新しい広告は、ダムに関する WWF のキャンペーンを支援するもので、15 以上の有力な出版物に掲載された。媒体価値は 300 万 US ドル以上で、この問題に関係する人々に大いにアピールすることができた。

公海を保護する

2004 年 9 月から、ワレニウス・ウィルヘルムセン海運会社は、WWF の公海保全推進活動を支援している。この共同イニシアチブには、公海管理に取り組み、公海海洋保護区 (HSMPAs) の設立など、現実的な保全解決策の開発に関する活動が含まれる。

謝辞

すべての皆様の惜しみないご支援に感謝いたします。皆様のお名前をすべて挙げることはできませんが、上に述べさせて頂いた方々に加えて、特に以下の個人・法人の方々に謝意を述べさせていただきます。

ABB 社

グロス社

IBTT BV

IKEA of Sweden AB

アンドレ&ロザリー・ホフマン

リュック・ホフマン

チャールズ・スチュワート・モット財団

プロパガンダ

エルメエグリド・ゼグナ財団



WWF Annual Review 2004

併せて、匿名を希望されている方々にも、心からの感謝を捧げます。

【P13 右下写真のキャプション】

長江ウェットランドプロジェクトにおいて、香港上海銀行と WWF は協力している。

【P12・P13 下の facts & figures】

80%：開発途上国における水に関連する病気の割合

5kg：消費財 1 kg に対して発生する廃棄物の平均的な重量

700 億 US ドル：ウェットランドの経済的価値の年間推定額

【P.14】

WWF インターナショナルの理事

「きれいな空気、きれいな水、きれいな土、そしてバランスの取れたエネルギーサイクルは贅沢なものではなく、私たちの生存に絶対的に必要なものだ。もはやこれらは地域の問題でなく、全世界の課題である」

オランダのベルンハルト殿下 (1911 - 2004) WWF 初代総裁

ベルンハルト殿下は、疑いなく、WWF の最も偉大な財産の一つであり、おそらく最も熱心で影響力を持った支援者だった。保全のスポークスマンとして、彼はとても先見の明のある人だった（昨日、述べられたことのような、上に引用した環境に関する呼びかけは、35 年前になされたものである）。もちろん、ベルンハルト殿下は、最も早い時期からピーター・スコットやジュリアン・ハクスリーそして他の方々と共に WWF 設立に助力した際、絶滅危惧種を保護するための法の成立や、国立公園を設立するために、インディラ・ガンジー首相からケネディー大統領に至る各国首脳に挑むにあたって、多大なる説得力を發揮した。「彼を失ったことは大きな痛手だ」この言葉は使い古された言い回しである。しかし、ベルンハルト殿下の場合は、WWF の我々すべてにとって決まり文句ではない。単に全くの真実であるに過ぎない。

私と WWF との関係は、今は亡きソラブ・ゴッドレー叔父が、私を WWF インドの理事会に引き入れた時から始まった。ソラブ叔父は、WWF インド設立時の理事の 1 人であり、私は、WWF がインドの野生生物と多様性保全活動において甚大な影響力を發揮するところを見てきた。WWF インターナショナルの理事となり、私は世界的に重要な問題に関与し、



WWF Annual Review 2004

貢献することができるようになった。私はビジネス一家の出身だが、WWF も設立時から企業とかかわりが深い。WWF の国際プログラムは、企業と社会が、生きている地球の実現に向かって協力することを促している。

WWF インターナショナル理事 ジャムシード・ゴッドレー

【P.16】

実効性の向上

WWF インターナショナル研修開発部長 リンダ・マンソン

全体的に見て、今日の WWF ネットワークは世界の課題と地域の課題をリンクする上で良い位置にある 私たちはサイヤクジラに気を配り、同時に、国際貿易と気候変動に取り組んでいる。

これらのすべての課題に、持てる能力以上に背伸びすることなしに取り組むことは、まさに挑戦である。私たちが成長を目指す理由はここにある。新しい事務所を増やすということではなく、事務所とネットワーク全体の実効性の向上という意味の成長である。

とすると、私たちの政策は、能力を強化し、既存の拠点を強めることとなる。例えば、より良い広報活動を行ない、全国的に資金を集め、価値ある政策提言活動をするために、WWF 中国の能力を強化した。主要な国々における WWF の権威を高めるもう一つの事例になるが、私たちは去年、ロシアにおけるプレゼンスを向上させた。これは、京都議定書を批准しようロシア政府を説得する際に、WWF ロシアにより多くの影響力を与えることができたということの意味する。

硬貨の両面

WWF インターナショナル政府援助機関関連部長 ティモシー・ギア

環境保全と貧困の持続的な軽減は、一枚の硬貨の両面だ。

政府及び公的援助機関は WWF にとって非常に重要であり、世界中の開発協力団体と実りあるパートナーシップ協定を数多く持っている。効果的であるために、特に大規模な保全プロジェクトにおいては、戦略的なパートナーシップを構築する必要がある。良い例として、WWF ドイツが WWF ネットワークを代表し、経済協力開発のドイツ銀行とパートナーシップを組んだことによって、コンゴ盆地における持続可能な森林管理に関する活動を始めとする多くの活動が可能になったことが挙げられる。これらの戦略的パートナーシップの鍵は、支援される国と支援する国の両方の視点からみても、持続可能な開発において環境は積極的な因子として働いていることを実証することにある。私たちは開発援助を受けて



WWF Annual Review 2004

いる国々に対し、経済的・社会的幸福に対する環境と自然資源の貢献を評価してほしいと考え、双方に対して、環境保全是持続する経済的自立の達成に不可欠であると理解してもらいたいと考える。

「WWF は、貧困と環境のつながりに関してとてもバランスの取れた見解を持っている。依然として、生物多様性に焦点を置いているが、その使命にとって重要な貧困削減に関しても理解している。そして同様に、WWF との関係を通して、私たちも、貧困削減活動にとって重要な環境保護について学んでいる」

英国国際開発省・シニア環境アドバイザー ステファン・バス博士

変化を起こすために

WWF インターナショナル国際政策部長 ゴードン・シェパード

WWF の大きな強みの一つは、WWF の外で変化を起こそうとする時に、戦略的に方向づけられたロビー活動や支援活動を行なう前に、WWF のネットワーク それぞれに重要な政策的立場にある組織で構成されたネットワーク を動かすことができるという能力にある。

世界の自然資源が劣化・破壊される速度という問題に取り組む初めての国際的取り組みである、生物多様性条約（CBD）の2月に行なわれた会議を、例として取り上げてみよう。他の組織と共に、WWF は、保護区に関して、一連の測定可能な目標と予定表を伴う計画的なアプローチを、景観レベルで採用するように、188 カ国の政府に働きかけ、実現させた。これは、重要なプレーヤーを見分けて、彼らに連絡をつけるという問題であった。私たちの成功は、2つの主要な優位性によると、私は信じている。第1に、科学的根拠を求める傾向がより強く、その結果、より強力な論理を有すること。そして2番目に、問題が実際に起きている国々、その問題がどのように解決され得るかという地域の理解の反映でもある国々における実際の経験に基づいて分析を行なっているので、より一層説得力があるということである。

【裏表紙】

略